

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

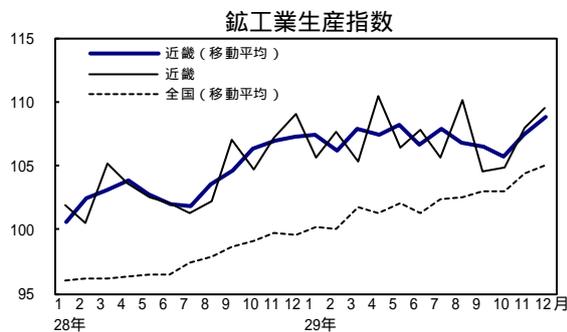
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。

10 - 12月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、化粧品等が減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、固定コンデンサ等が増加した。「汎・生産・業務用機械」は、自動立体倉庫装置等が増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、橋りょう等が増加した。「窯業・土石、その他工業」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

業種	付加価値ウェイト	生産				
		7 - 9月期	10 - 12月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	2.0	1.9	3.3	1.8	8.7
電子デバ、電気・情報通信	18.0	3.9	0.9	0.8	3.6	1.5
汎・生産・業務用機械	17.9	2.4	3.7	6.7	11.7	13.0
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	0.2	0.6	5.3	6.8	13.0
窯業・土石、その他工業	9.6	1.9	0.1	1.3	0.8	1.4
鉱工業	100.0	1.4	0.7	0.4	3.0	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

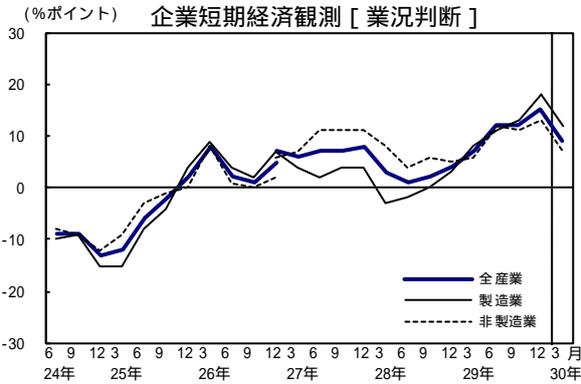
2. 10 - 12月期、12月は速報値。

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。  
 2. 全国及び近畿の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。  
 3. 近畿は内閣府にて算出。

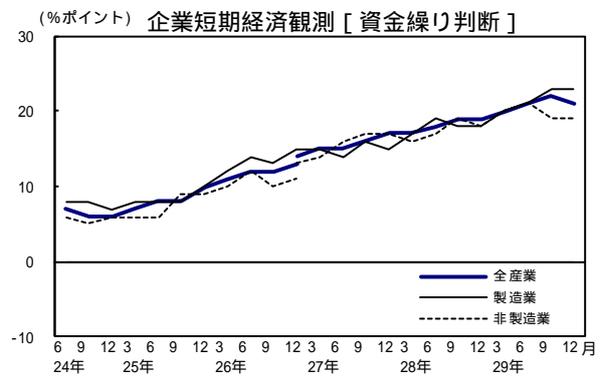
(8) 近畿

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

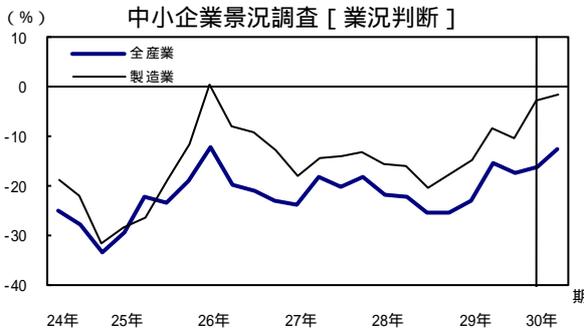
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

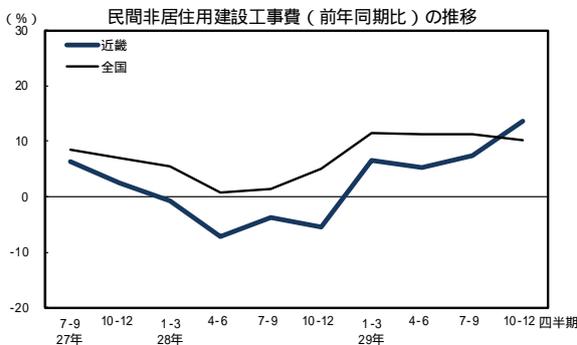


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「12月頃から厳しい寒さとなり、冬物商品の売行きが良い。今も完売状態になっている(その他非製造業 [機械器具卸])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度見通
全産業	2.1	4.8 ( 0.3)
製造業	7.6	11.1 ( 1.5)
非製造業	1.5	0.3 (0.6)

(備考) ( )は前回(9月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前年比0.3%増、11月は同0.4%増、12月は同0.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額

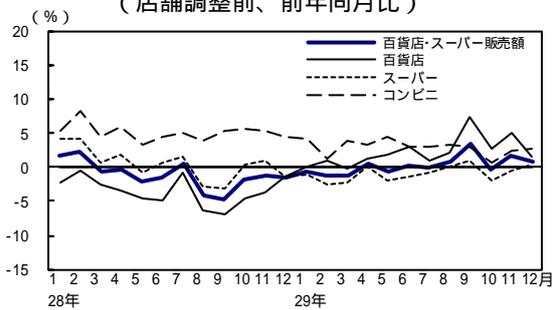
百貨店は、10月は、インバウンド需要が旺盛であり、その他の商品や身の回り品が好調だったことなどから、前年を上回った。11月は、インバウンド、国内向け共に化粧品や時計等の高額品が引き続き好調だったことなどから、前年を上回った。12月は、インバウンド、国内向け共に化粧品や特選衣料等の高額品が引き続き好調だったことなどから、前年を上回った。

スーパーは、10 - 12月期は、飲食料品は好調だったものの、衣料品やその他の商品等が不調だったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

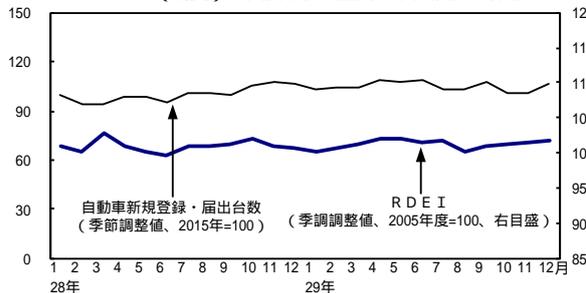
「宿泊に関しては、ホテルのほか、民泊などの簡易宿所は供給過多の状態が続いており、客室単価の下落も始まっている (都市型ホテル)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.5	0.3	0.4	0.1
百貨店・スーパー(*2)	0.9	0.3	1.8	1.0
百貨店(*3)	2.9	2.6	5.0	1.6
スーパー(*3)	0.6	2.0	0.5	0.5
コンビニ(*3)	1.8	0.6	2.3	2.6
乗用車(*4)	3.2	2.2	6.4	0.8
(季節調整値) (*4)	1.6	5.8	0.4	5.7

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

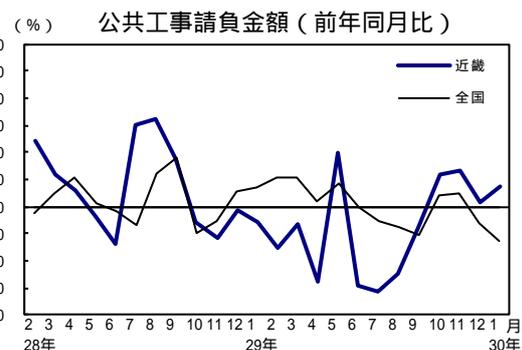
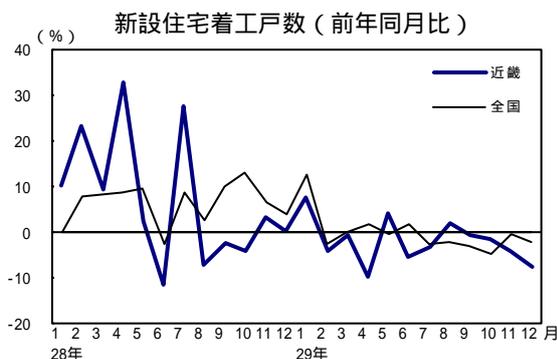
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿 (福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山) の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



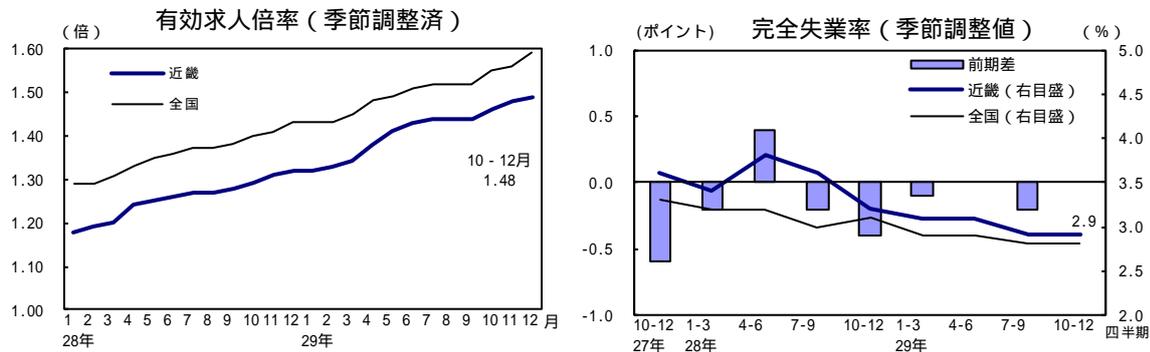
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

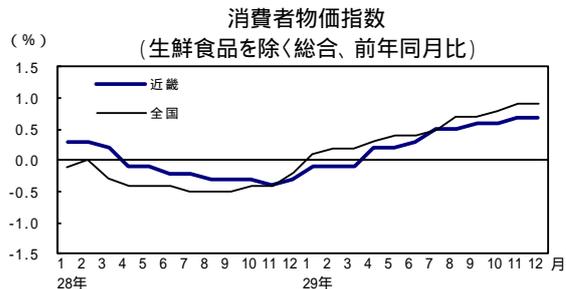
「年度末を控え、活発なオーダーがどの業種からも入ってきている。そのほとんどが3か月までの短期オーダーである。昨今の状況を反映して、マッチングできる人材が不足しているが、派遣先企業では、短期のオーダーは少々条件が合わなくても、その場しのぎで採用するケースがみられる。人材難ということで、少々は目をつぶっても採用する動きがみられ、この傾向は年度末まで続く (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	506	563	561	541	173
(前年比)	4.0	5.8	9.6	6.7	15.3
負債総額	481	561	570	539	181
(前年比)	49.2	5.2	3.7	90.7	51.6



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・来客数は余り変わらないが、買上単価が上がっているほか、東南アジアからの観光客による購入が急速に増えている (その他専門店 [宝石])。

<先行き>

・大阪万博が決まれば、関西での投資も続くほか、観光客も増えることが期待される (一般小売店 [事務用品])。

